

会長メッセージ

人類が危機に直面する今こそ、 イノベーションの担い手として 広く社会に貢献します。

私たちは昨年来、新型コロナウイルスという大きな困難に見舞われ、あらゆる局面において変化を余儀なくされています。加えて、新型コロナウイルスは、社会がすでに直面していた二つの本質的な危機、すなわち「社会の分断」と「サステナビリティの危機」をさらに増幅させています。格差拡大によるポピュリズムや自国第一主義の台頭は世代や貧富間の分断、ひいては米中覇権争いに代表される世界の分断を生み、また、地球温暖化やパンデミックなどの生態系の破壊は人類社会のサステナビリティの危機を招いています。

こうした危機を背景に、世界はこれから5年、あるいは10年をかけて新たな秩序を形成していくと思われますが、その際に私たちは二つの視座を持つことが肝要だと考えます。一つは、「正義・公正」という視座です。基本的人権や民主主義、法の支配といった普遍的な価値観を私たちは改めて認識しなければなりません。もう一つは、「社会性」の視座に注目する必要があります。これは、ESGや、Diversity(多様性)とInclusion(包摂)を重視するSDGsの考えに通じる概念であり、「自利利他 公私一如」をはじめ、住友化学グループが創業以来受け継いできた住友の事業精神でもあります。

そして、この「正義・公正」および「社会性」という二つの視座を持って社会変容を実現する上で欠かせないのが、科学技術とイノベーションです。化学は、錬金術を源の一つとして発し、論理実証主義のもとで自然科学として発展してきました。社会が新たに求める、あるいは未だかつてないような性質を持った物質を創り出す化学は、現代社会においてもまさに「錬金術」です。化学産業は、環境や医療、食料などあらゆる分野に関わる非常に間口の広い産業として、カーボンニュートラルの実現をはじめ、複雑で高度化するさまざまな課題を解決し、社会をよりサステナブルなものに変革するためのイノベーションの担い手であるといえます。

人類が新型コロナウイルスという新たな危機に直面する今こそ、当社は「自利利他 公私一如」の事業精神に立脚しながらイノベーションを生み出すことで、Society 5.0の実現に貢献し、将来にわたって社会から信頼される会社を築き上げていきます。

ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続き、格別のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2021年7月
代表取締役会長

十倉 雅和

